



八時間労働で日本経済はやってゆける

今から十年位前、私はエンジンアとしてプラント建設に従事していた。長時間の残業が当たり前。中東の工事現場では、土日も働き休みは月一日の事もあった。

しかし、四十年余り前、旧ソ連のプラント建設に行って驚いた、残業なし。八時間労働が当たり前。我々雇われ外国人も同じ。工事現場の事務所では残業するのは許されなかった。

定時に仕事を終え、バスでアパートの一室に戻る生活。庭にはバレーボールコートがあり、中高生がバレーボールに興じていた。暫くすると、大人に交替。職場から戻って来たのだ。残業がないから、毎日決まった時刻に帰る。

旧ソ連は経済的には遅れていた。日本に比べると街に出回る商品は少ない。車の性能も劣っていた。それでも八時間労働で国の経済は回っていた。

ロシア革命直後の一九一七年から八時間労働制を実現。現在の日本の経済力は、旧ソ連より遙かに大きい。

その日本の経済が八時間労働で回らない筈

富を再配分すれば

消費税の導入後、法人税や超々高額所得の所得税が引き下げられた。つまり国民の作り上げた富を働く者から超々金持ちに移るようになったのだ。法人の内留保は四五〇兆円に膨らんだ。これを改め、富が再配分されるようにすれば、八時間労働で日本経済はやってゆける。

あなたはどう思われますか？

ヨークシャーファーム

北海道上川郡新得町字新得基線

二〇一九年六月



富良野から狩勝峠を超えて帯広に向かうと、新得町。羊がいっぱいの牧場。ペンションヨークシャーファームだ。夕食の仔羊のステーキがおいしい。

牧場はいくつかに仕切られ、順番に草を食べさせると云う。春に沢山の仔羊が生まれた。中には育児放棄する親もいて人工哺育。こうした仔羊は人を母と思っ

てか、追って来てかわいい。哺乳瓶を使って哺乳体験も出来る。

この町で朝ドラ「なつぞら」の一部のシーンがロケされた。しかし、防疫の為、観光客が集中しないよう、その場所は非公表。

一九五七年には日本全体で百万頭の羊が飼われていた。しかし、羊毛輸入自由化で減少。今では北海道で羊の牧場は十カ所余りに減ったという。



来週は休みます。

